

登録コード	E4642900	開講年度	2026				
授業科目	中等音楽科教材論					担当教員	齊藤 忠彦
英文授業名	Teaching Contents and Materials for Music of Secondary School					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・2時限	対象学生	
講義室	教育N 4 0 4			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 6 Eカリ，2 5 Eカリ，2 4 Eカリ，2 3 Eカリ，2 2 Eカリ，2 1 Eカリ，2 0 Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				学校の音楽教育に携わる専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観を高めることができるようになる。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				中等音楽科で扱われている教材に関する知識や理解および演奏などの活動を通して，中等音楽科の指導場面で必要となる教材に関わる実践的指導力を向上させることができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	中等音楽科における教材の定義，素材の教材化，教材基準，教材構成などの理論を最初に学び，続いて，音楽教科書や合唱曲集などの副教材で扱われている楽曲の教材研究を行ったり，演習を通して演奏技能を高めたりする。新たな教材開発も試みる。担当教員が中学校教育現場の実務経験を活かして講義を行う。						
(5)授業計画	第1回：ガイダンス，教材論の基礎 第2回：音楽科の教材の定義 第3回：素材の教材化 第4回：教材基準，教材構成 第5回：中学校歌唱教材 第6回：中学校器楽教材 第7回：中学校創作教材 第8回：中学校鑑賞教材 第9回：高等学校歌唱，器楽教材 第10回：高等学校創作，鑑賞教材 第11回：領域（分野）を横断する教材 第12回：情報機器を活用した教材開発 第13回：新たな教材開発実践 第14回：授業のまとめと筆記試験，授業アンケート実施						
(6)成績評価の方法	知識に関わる内容についての小テストが20％（ ），教材研究のプレゼンが20％（ ），同教材の演奏技能が20％（ ），教材開発に関わる評価が20％（ ），本授業全体を通しての関心・意欲・態度を20％（ ）とし評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀，89-80％ 優，79-70％ 良，69-60％ 可，59％以下 不可。						
(7)成績評価の基準	（ 4 ）の から までの内容に関わる知識や技能が極めて高くかつ が極めて高い評価であった場合は「卓越している」， から までの内容に関わる知識や技能が高くかつ が高い評価であった場合は「かなり上にある」， から までの内容に関わる知識や技能が一定水準以上でかつ の評価が標準的であった場合は「やや上にある」， から までの内容に関わる知識や技能が水準にありかつ について標準的な取り組みであった場合は「水準にある」と評価する。						
(8)事前事後学習の内容	教材研究の場面では，事前の予備学習が必要となり，教材を紹介するためのプレゼンも作成しなければならない。なお，取り上げる楽曲については，それを紹介するための演奏技能を事前に高めておくようにする。この授業は90時間の学修を必要とする内容である。従って，60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(9)履修上の注意	・教材研究は事前の予備学習が大切となるので，それなりの時間を確保できるように予定しておくこと。 ・公開授業研究会等の授業を参観し，教材化の実際について実践的に学ぶ機会を得るようにすることが望ましい。						
(10)質問，相談への対応及び連絡先	オフィスアワー：研究室在室時は常時対応可（N410） 研究室電話：026-238-4133 メールアドレス：saitota@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	中学校・高等学校学習指導要領（音楽）解説，文部科学省，教育芸術社，227円 ほか						
【参考文献】	適宜紹介						